

関東支部旅日記

関東支部 大久保 雅弘

平成25年6月29日、梅雨の晴れ間をぬって関東支部年間行事を実施致しました。

当日は心配されながらも雨もなく旅行社企画のバス旅行「世界文化遺産登録の富士山を見に行こう！」をお題目に日本一の山梨甲州桃の食べ放題に1箱のお土産付き・ワイン工場での試飲会・ハーブ園とフェスタバル見物など、花を愛でながら胃袋と心を癒す旅に期待を膨らませるの参加でした。参加者は最年長78歳の北村三郎氏を先頭に村上和夫（74歳）、山本秀一（73歳）

大久保清作（70歳）、尾上茂夫（69歳）久家俊夫（69歳）、稲田稔（65歳）松本栄（65歳）、馬場泰則（73歳）大久保雅弘（73歳）と10名の参加者となりましたが、因みに関東支部会員は20名です。丁度5割の出席率となりました。

さて最初の訪問地は葡萄とワインの生産量日本一を誇る甲府盆地の真中「勝沼」

夏は気温35度を超える暑さ、冬は零下5度まで下がる厳しい環境のも

と、世界初のボトルカップ付き型、缶ワインを製造販売しているモンテ酒造（株）の製造過程を訪問、本来なら乳剤工場と同じ充填から包装までの過程に注目すべきところですが、何せ既に心は試飲会場への急ぎ足となり各種別別スタンドでの飲み放題となりました。

中でも金賞受賞の「玉露リキュール」は人気ナンバーワンのお茶のお酒、冷水、牛乳、炭酸などで割ってのドリンク、原酒はアイスクリームやヨーグルトにかけても最高の商品に朝から飲物をセーブしてきた乾いた喉を潤すには充分な満足感を達成しました。昼食は特製の甲州ワインピーフ幕の内弁当に舌づつみをうち、桃園にて食べ放題の桃狩りとしやれこみ、次いでハーブ栽培庭園を訪問、日本では“香草”“薬草” 欧州では“美肌草”と呼ばれ、2000㎡の広大な敷地にハーブ（ローズゼラニウム）が一面に栽培され、先人からの効果効能が認められている頭痛や腹痛の緩和・傷口の消毒やアトピー対策・切り傷の消毒・虫さされの中和・食物保存料など、現在でもハーブの利用法は数限りなく広がっています。

ここではこのハーブを原料としての化粧品類を製造販売していますが、庭園内の説明から売店での販

売迄、絶妙なる話術で誘導する案内人の口車に乗せられ化粧水やらクリムやら家で待つ愛妻にと財布の紐も緩みっぱなしの参加者でした。

最後は富士の麓で紫色のラベンダーが香り、咲き誇る川口湖畔の八木崎公園で開催されているハーブフェスタバルを見学、昔日の思い出を語り、懐かしみながら明日への糧とすべく1日漫遊のぶらり旅でありました。



前列：北村・大久保（清）・久家・馬場
後列：村上・尾上・松本・山本・稲田・大久保（雅）